

## 第 40 回国際外科学会世界総会 開催結果報告

### 1 開催概要

- (1) 会議名：(和文) 第 40 回国際外科学会世界総会  
(英文) 40th World Congress of the International College of Surgeons (ICS2016)
- (2) 報告者： 第 40 回国際外科学会世界総会 大会長 山岸 久一
- (3) 主催： 国際外科学会、第 40 回国際外科学会世界総会組織委員会、日本学術会議
- (4) 開催期間： 平成 28 年 10 月 23 日(日)～10 月 26 日(水) (4 日間)
- (5) 開催場所： 国立京都国際会館 (京都府京都市左京区)
- (6) 参加状況： 29 カ国/1,970 人 (国外 266 人、国内 1,704 人)

### 2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯

第 40 回国際外科学会世界総会(ICS2016)は、国際外科学会(International College of Surgeons: ICS)が 2 年ごとに開催する会議であり、1936 年の第 1 回から 2016 年の当会議で 40 回を迎える外科学分野で最も歴史のある国際会議である。2013 年 4 月 2 日の International Executive Council において、第 40 回国際外科学会世界大会を 2016 年 10 月に日本で開催することが決定された。第 20 回以来の 3 度目の日本での開催となる。これを受け、国際外科学会日本部会は、日本開催準備のために、第 40 回国際外科学会世界大会組織委員会を 2013 年に設置し、開催の準備を進めることとなった。この度の日本開催では、世界のトップレベルの外科医が一堂に会し、最新の研究成果について討論や発表が行われ、外科学の発展とその応用展開を図ることを目的として開始された。また、第 61 回日本部会総会を合同開催とし、多くの日本人外科医が参加し、活発な議論が交わされた。

また、国際外科学会は非政府機関として WHO と公式関係のある唯一の国際的な外科学会であり、WHO と直接関わることにより、日本の外科治療を発展途上国をはじめ、各国の外科医に必要なトレーニングや教育の提供を可能にした。

- (2) 会議開催の意義・成果：

第 40 回国際外科学会世界総会(ICS2016)は、我が国及び世界の外科(メスを扱い治療する全ての領域を含む)の発展に寄与することを目的とする。

近年、外科の領域では専門分野の細分化が著しく、脳外科、消化器外科、移植・再生医学、災害外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻科、眼科などのメスを扱う各専門領域が、さらに細かい専門領域に分化されつつある。そのような状況においては、「外科学としての統合」が重要となる。外科領域として共通するコンセプトを共有しながら、各専門領域の人たちが膝を突き合わせて諸問題を議論し、解決の道を探りながら世界の外科学の発展に寄与できたと感じる

また、外科医の行う手術は最高の治療手段であると共に、患者の身体に大きな侵襲を加えることとなるため、患者の「心」を十分に慮り、治療に向かう姿勢が外科医にとっての基本である。このたびの国際外科学会世界総会のメインテーマを「心」として、温情溢れる心を含めた外科治療とはいかなることかについて、世界の外科医と一堂に会し議論を交わす中で、21 世紀の外科治療のあるべき姿が議論できたと思う。

- (3) 当会議における主な議題（テーマ）：  
メインテーマ：「心」—心のこもった外科を求めて  
“Heart” — Principles for Thoughtful Surgery
- (4) 当会議の主な成果(結果)、日本が果たした役割：  
今回のメインシンポジウムとして、「心のシンポジウム」が開催されました。その「心のシンポジウム」では、国際外科学会は「遺伝子医療、移植・再生医療、ロボット手術、その他、新しい科学技術が導入され医療のあり方が変化して来ている現在、これらの新しい医療技術の実施導入に際しては医療の原点を忘れることなく、医師が十分に医療倫理を守り患者さんの心を考慮に入れたPatient firstの外科医療を推進してゆくことを宣言する」とした、「京都心の宣言」が発信されました。その後の開会式では、天皇皇后両陛下や内閣府特命大臣など多数のVIPが御臨席される中、第40回国際外科学会世界総会が開会し、また、天皇皇后両陛下は、その後のレセプションにもご臨席され、世界中の外科医らとご歓談され、交流を図られました。
- (5) 次回会議への動き：  
次回は2018年10月にリマ（ペルー）にて開催予定。
- (6) 当会議開催中の模様：  
プログラムは、演題数833演題(シンポジウム54セッション/256演題、一般演題32セッション/515演題他)が集まり、横断的なテーマに沿った充実したプログラムが構成されました。  
初日のWelcome Receptionでは、茶道流派の三千家である、武者小路千家によるお茶会から始まり、日本の伝統文化に直接触れることで、世界各国からの参加者をお迎えしました。  
2日目からは、本格的な学術プログラムがスタートし、今回のメインシンポジウムとして、「心のシンポジウム」が開催されました。その「心のシンポジウム」では、国際外科学会は「遺伝子医療、移植・再生医療、ロボット手術、その他、新しい科学技術が導入され医療のあり方が変化して来ている現在、これらの新しい医療技術の実施導入に際しては医療の原点を忘れることなく、医師が十分に医療倫理を守り患者さんの心を考慮に入れたPatient firstの外科医療を推進してゆくことを宣言する」とした、「京都心の宣言」が発信されました。その後の開会式では、天皇皇后両陛下や内閣府特命大臣など多数のVIPが御臨席される中、第40回国際外科学会世界総会が開会し、また、天皇皇后両陛下は、その後のレセプションにもご臨席され、世界中の外科医らとご歓談されました。  
3日目には、特別講演として、「中性子捕捉療法」の将来展望や、「再生医療」に関する最新の臨床応用、「ロボット手術(da Vinci)」の最新治療実績等が報告され、活発な討議が交わされました。夕方からは、世界遺産に登録されている「二条城」でのカクテルパーティーから、琴や尺八の演奏で、最後まで日本の伝統文化に触れながら、多くの外科医が交流することができ、記憶に残るGala Dinnerとなった。  
最終日は、心臓血管外科、眼科、形成外科、美容外科等の最新治療が報告されました。また、市民公開講座では、「人間の尊厳を保ちつつ、健やかな老後を目指して」と題し、介護や認知症、がん、各種障害等へのロボットセラピーなど、これからの高齢化社会に向けての最新の日本の取り組みについて、多くの府民にメッセージを発信しました。
- (7) その他特筆すべき事項：  
2012年にオーストラリアのブリスベンにて開催された、第38回国際外科学会世界総会にて、2016年に日本（京都）への誘致活動をはじめ、日本部会からの積極的な参加を呼び掛けた結果、多数の日本人参加者が参加したことによって、翌年2013年に日本（京都）での開催が正式に決定された。日本部会会員の総合力の強さが、第20回ぶり3回目の開催に繋がった。

### 3 市民公開講座結果概要

- (1) 開催日時：平成28年10月26日（水）13：00～16：00
- (2) 開催場所：国立京都国際会館「メインホール」

- (3) 主なテーマ、サブテーマ：「心」～ 人間として尊厳を保ちつつ、健やかな老後を目指して～
- (4) 参加者数、参加者の構成：約 300 名、一般市民
- (5) 開催の意義：

第40回国際外科学会世界総会(ICS2016)を開催する同組織委員会は、国際会議の開催を通じ、外科学・外科治療を含め、医療全般において、一般市民の理解を深め、その知識を社会へ還元するため、府民・市民公開セミナー開催した。
- (6) 社会に対する還元効果とその成果：

本公開セミナーのテーマは、現在の日本では社会的にも関心度が高いものであり、癌と闘う外科医からのメッセージから始まり、ジャズシンガー織戸智恵様による「家族との関わり」について実体験を交えての講演は、聴講者にとってインパクトのあるメッセージとなり、広く府民・市民に啓発できたと考えられる。
- (7) その他：

公開セミナーは京都府、京都市の後援をいただき、また、開催案内として、ポスターやチラシを作成し、新聞紙上やホームページでも広く告知を行うことで、多くの参加者を得ることができた。

#### 4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

日本学術会議との共同主催により、開会式に天皇皇后両陛下のご臨席が実現したことは、国際外科学会が日本でのプレゼンスの向上につながり、会を成功裏に進められた大きな要因となったと言える。また、会場費等の援助を受けられたことは、運営費を節約することができ、その分、参加者の利便性向上に資することが大きかった。さらに、市民公開講座を開催し、広く市民へ成果を還元できたことも、共同主催の賜物と考えられる。

##### 【添付写真】



(主催者挨拶を行う山岸久一 ICS2016 会長)



(主催者挨拶を行う大西隆日本学術会議会長)



(来賓挨拶を行う鶴保庸介内閣府特命担当大臣)



(レセプション会場でのご歓談の様子)